

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570406207		
法人名	バンドーケアポート株式会社		
事業所名	グループホームバンドー大館		
所在地	秋田県大館市釈迦内下清水27		
自己評価作成日	平成22年 11月9日	評価結果市町村受理日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

3ユニットそれぞれ利用者の状態を考え独自の理念を掲げている。その為、各ユニットリーダーを中心に自由な取り組みや支援に努めている一方でユニット間で交流しながら活動する事で相乗効果が生まれ、利用者の新たな一面を引き出すなど3ユニットの特色を生かしながらケアにあたっている。  
 法人独自の「生活(暮らし)アセスメントシート」様式を作成しており、日々の支援を記録する事で、利用者への接遇やケア技術、方針等を職員間で共有している。  
 外部研修への参加や認知症介護に関するテーマごとの内部研修計画を行ったり、「気づきシート」を活用して日々の業務を振り返りながらも、職員の資質向上に努めており、利用者及び家族へのサービスと満足度の向上に繋げている

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0570407932&amp;SCD=370">http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0570407932&amp;SCD=370</a>
----------	---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

企業理念の他にユニット毎に理念を掲げ、見直しも行われています。各ユニットで掲げた理念をもとに、それぞれが特徴を出し、利用者支援に当たられています。「バンドー介護サービスグループ」という大きな組織の中で利用者・家族、職員の意見や提案を、また、運営推進会議では、メンバーのそれぞれの立場からの情報や意見を参考にし運営に反映され、より良いグループホーム作りが行われています。職員は、利用者にとって事業所が第2の我が家として心地よく、明るく朗らかに喜びを分かち合うことができ、活き活きとした笑顔を引き出し、親孝行ができるように支援をされています。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田市東通3丁目9-31		
訪問調査日	平成22年11月25日		

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットの理念として「第2の我が家・・・あったかな陽だまりの中、よろこびをわかちあえる、元気な笑顔があるホーム」を理念として掲げ、職員で共有しながら日々のケアにあたっている。	「親孝行」を企業理念に掲げ、さらにユニット毎に独自の理念を構築され、カンファレンス時やユニット内の掲示によって日々を振り返り、共有され、実践に繋げております。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な散歩で挨拶を交わしたり、地域の祭典時には子供神輿や曳山等事業所に訪れ歌や踊りを披露してくれる。施設の夏祭りや吹奏楽の演奏会では地域の公民館に案内ポスターを掲示し地域の方の参加を呼びかけている。	日頃の散歩時の挨拶や花等の頂き物、地域の方々の来訪による行事披露、事業所行事への参加を案内することで地域の一員として交流を持たれています。	
3		○事業所の方を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議を通じて、グループホームの日常生活や対応、支援の方法などを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて、市役所へ出席を依頼し実情やサービスの取組みを伝えている。会議の内容や意見を職員間で共有しサービスの向上に繋げている。	市職員の協力が得られ、2か月に1回の会議が開かれるようになり、状況・行事、世の中の情勢、市の状況、地域の実情等がそれぞれのメンバーから報告によって、事業所に関連して忌憚のない意見交換が行われ、サービスの向上に繋がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村へ出向いたり、運営推進会議を通じて連絡を密にしている。	制度利用に当たった質問や利用者の状況によって市担当者や連絡を密にとられる等、連携を図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修計画に取り入れ全スタッフが理解を深めている。戸締りについては、建物の前に川がある為、利用者の安全を第1に考え、家族の同意を得て行なっている。時間帯や見守りができる状況によっては開放したり、外出希望の際は、一緒に出かける等の対応をしている。	見守りや付き添いによって鍵をかけない努力はされていますが、受診等によって職員が不足となる時間帯は家族等の同意を得て、施錠を行う場合もあります。また、職員は身体拘束をしてはならないことを研修を通じて理解しておりますが、さらなる工夫を期待します。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画に於いて研修を行い虐待防止の徹底を図っている。又、管理者は職員の日々の声かけ、ケア等を観察し徹底している。		

グループホーム バンドー大館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画に於いて研修を行い理解を深めており必要としている方々の取り組みを考慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時解約時において十分な説明を行い納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常会話の中から利用者の意見や要望を引き出す様働きかけている。ご家族の方々には運営推進会議の参加を呼びかけしたり、面会時に、意見、要望等ないか問いかけを行っている。	利用者からは日常会話の中で、家族等からは面会時や電話で意見や要望が言い出しやすい雰囲気作りをされ、運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、カンファレンス時や日常的に職員の意見や提案を聞くようにしている。更に、事業所の部長や法人のグループホーム事業部のケアマネージャーが、その意見を集約したものを運営者に提案したりしている。	日頃の業務の中やカンファレンス時に職員からの意見や提案を聞く機会を設け、リーダー会議の中で運営者に提案され、運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の意見が話合える様業務カンファレンスを行い楽しい職場作りに努めている。また、キャリアパス制度の導入を行なう事で、スキルアップしていける様配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルアップに繋げる様内外研修の取り組みを行っている。向上心が持てる様な職場環境の整備を心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流として運営者が行なったり、法人内でも職員間の交流は行なわれている。また、外部研修に参加する事で、他事業所との交流の機会となっている。		

グループホーム バンドー大館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事、求めている事を良く傾聴しケアに取り組みが出来る様に努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コミュニケーションを取るようしており情報提供と共に意見や要望を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に調理を行ったり、その方の得意な作業を行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月個人便りを郵送しホームでの生活状況を報告したり、面会時や電話でも伝え情報を共有する事で、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元での買い物や外出に出掛けたり、かかりつけの病院受診の継続など本人の希望に合わせている。	これまで利用していた美容院や病院、買い物先等が継続して利用できるように支援されている他、自宅への訪問や外泊支援も行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流が図れるようにレクリエーションへの参加の呼びかけや同じ空間で過ごして頂きながら楽しみや達成感を感じて頂ける様努めている。		

グループホーム バンドー大館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族から連絡を頂く事があり、必要に応じたサービスの再利用やその他介護相談等に応じ、法人内で連携をとりながら対応している。関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の聞き取りが困難な方はご家族に在宅での生活を聞き取りしたり、ご家族の思いや意向を把握しアセスメントに生かしている。	日常会話の中で、本人の思いや意向の確認が行われ、困難な場合は、家族等の助言をいただき本人本位に検討されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで生活歴などを把握しその中から入居者のそれぞれの可能性を見極めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態を把握し、その方らしい暮らしに近づける様個々にあったケアを行う様努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者及びご家族の要望や意見を踏まえ、それぞれのニーズに応じた介護計画を作成している。ユニット内でもカンファレンスを行い職員の意見も取り入れている。	本人・家族等の意見や要望をもとに、カンファレンスで話し合った内容が、介護計画に反映されています。職員はケアの在り方について共有を図り、毎月のカンファレンスで見直しも行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況や介護計画に基づいて入居者それぞれのケースファイルに記録し職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

グループホーム バンドー大館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な運営推進会議に市や民生委員に参加してもらったり、ボランティアの慰問、諸機関(消防署)の協力を得ている。医療機関は委託医の協力を得、往診を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を受けている。又、体調不良時にはかかりつけ医の指示を仰ぎながら適切な医療を受けられるよう支援している。かかりつけの薬局とは、薬を届けてもらうなど協力を得ている。	これまでのかかりつけ医への受診ができるように付き添い支援が行われている他、往診や訪問看護の利用もできます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護を受け、24時間の連絡体制が整えられており連携を図っている。又、管理者は看護師の資格を有しており、訪問看護師とも連携を図りながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には適宜面会を行い、病院関係者との情報交換を行って早期退院できる様になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や看取りの指針があり、なるべく生活が継続できる様にしているが、系列法人の有料老人ホームの入居や特別養護老人ホームへの入居も家族と検討している。	これまで、看取りを行った利用者はおりませんが、事業所としての指針を作成されており、利用者・家族、訪問看護、主治医等との十分な話し合いのもとに検討されます。職員は、方針を共有されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成しており内部研修を行うと共に、外部研修として普通救命講習に参加し実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定の場合も合わせ避難訓練を年2回実施している他、毎月ユニット内でも訓練を行っている。	災害対策については、年2回の避難訓練の他に、スプリンクラーや自動火災報知機の設置、地域への協力依頼、研修や日頃の話し合いでの意識付け等が行われています。	

グループホーム バンドー大館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令的な言動や自尊心を傷つけない様に充分注意を払いながら職員間の統一を図り、ケアカンファレンス等で検討し入居者の尊厳が保たれる様な介護を心掛けている。	一人ひとりの人格を尊重され、言葉づかい等に配慮が観られました。また、事業所内が一定温度になるようにとの配慮から居室の戸が開放されておりましたが、利用者が休まれる時には閉められています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が希望を表わしやすい様に声掛け、それを促すための取り組みを行う等入居者の出来る事を見極めながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれのペースに合わせ、画一的にならない様に心掛けながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	声掛けや衣類交換の促しにより、プライドを傷つけない様身だしなみを整えたり清潔な衣類を着れる様配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と同じ食事ではないが共に同じ食卓を囲み楽しく会話しながら食の自立を目指しさり気無く支援している。又、入居者と職員と一緒に調理などを行う場面作りをしている。	食材の下ごしらえや皮むき、茶碗洗い、茶碗拭き、お絞り畳み、お盆拭き、下膳等、利用者のできることをお手伝いいただくことで生き活きとした表情を引き出し、食事が楽しくなる工夫をされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの状態や栄養バランス等考えながら提供しており、それぞれの食事摂取量も把握している。また、年1回、法人の栄養士から栄養指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行うと共に、週1回義歯洗浄剤を利用し口腔内の清潔保持に努めている。		

グループホーム バンドー大館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜を通して排泄パターンの把握に努めており、それぞれの状況に応じてトイレ誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握され、誘導によって失禁の回数を減らす等の工夫が観られます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態の把握をし、水分補給や散歩、軽い運動、食生活の工夫(野菜類や果物)を取り入れながら便秘予防に努めている。安易に薬に頼らない様になっているが、便秘の際は、主治医に相談し下剤の処方や内服量の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェックし、血圧が高めの方には入浴時間を配慮し体調不良時には看護師や主治医に確認しながら支援している。入浴拒否をする方には無理じいせず、さり気無く誘導しながら支援している。	週に3回は入浴ができ、入浴剤の使用もあります。また、入浴ができない時には足浴が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前の足浴や日中の軽運動などの活動的な生活により眠剤の服用軽減を含めて安眠を支援している。毎日の睡眠時間やサイクルを把握し、眠剤服用している方は夜間の睡眠状態に注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容が一目でわかるように一人ひとりの個人ファイルを設け、全職員が把握し誤薬のない様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴やアセスメントに基づき全ての入居者が出来る範囲で何らかの役割を持ちながら生活できる様に支援している。昔話や若い頃の会話から回想法を利用したケアを行う等の工夫もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	近隣への散歩やドライブ等で積極的な外出をしている他、毎日の日課の中でも外気浴や日光浴を取り入れている。	日常的に散歩や日光浴、外気浴が行われ、普段行けない場所へは、ドライブや外食、買い物等で楽しんでいただいております。	



グループホーム バンドー大館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルに配慮して、その方の状態に応じてホームで預かる等の対応をしている。買い物の際は、能力に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時など、番号を押すなどの介助で電話を利用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家庭と同様に花や観葉植物を飾ったり季節を感じて頂ける様に季節に沿った飾り付けなどを行っている。	利用者が居心地良く共有スペースを活用できるようにソファやテレビ、テーブル、椅子等が配置され、季節ごとの手作りの作品の飾り付け、行事時の写真や利用者の笑顔の写真等が掲示され、大きな窓から四季の移ろいを感じられる造りとなっております。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ホール内のソファの配置の工夫や一人になれるスペースを確保する等配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室では入居者が使い慣れた家具や調度品を使用しておりご家族に対しても馴染みの物品を持ち込んで貰える様働きかけている。	利用者の多くが、居室は寝室と覚えておられることもあり、筆筒や衣装ケースの必要最低限のもので、閑散とした感じがします。中には仏壇や位牌を持ち込まれた方もおられ、本人にとって居心地の良いスペース作りとなっております。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造になっており手摺のほかベットの柵を設けている。洗面所やトイレの表示は大きめの字や立体的な形状の工夫を行っている。		